携帯型ＣＤＴライン試験器

ＦＥＡ－０２７

取扱説明書

★　ご使用になる前に

本製品は、電気的知識を有する方が、本取扱説明書の内容をご理解いただいた上で使用する計測器です。一般家庭・消費者向けに設計、製造された製品ではありません。

電気的知識のない方が使用する場合は、人身事故および製品に損害を生じる恐れがありますので、必ず電気的知識を有する方の監督の下でご使用ください。

★　取扱説明書をご覧になる際にあたって

本製品を正しく安全に使用していただくため、本製品の捜査にあたっては本書で規定している各種制限値を厳守し、無理な取り扱いを避け、常に仕様値内でご使用ください。

なお、これらの注意に反したご使用により生じた障害については、本社は責任と保障を負いかねます。

本取扱説明書で説明されている内容は、一部に専門用語も使用されていますので、もし、ご理解できない場合は、ご遠慮なく当社までお問い合わせください。

製品を安全にご使用いただくために

下記に示す使用上の警告・注意事項は、使用者の身体・生命に対する危険及び製品の損傷・劣化などを避けるためのものです。必ず下記の警告・注意事項を守ってご使用ください。

★ 製品のカバー及びパネルに関する警告事項

・カバーをはずした状態で電源を入れないで下さい。
感電の原因になります。

・製品に強い衝撃を与えないで下さい。
故障や性能の低下につながる恐れがあります。

・液晶表示素子（ＴＦＴ）パネルを強く押さないで下さい。
故障や性能の低下につながる恐れがあります。

・お客様自身で装置を改造しないで下さい。
感電や装置の破損の原因となります。

★ 電源に関する警告事項

・電源電圧について
規定の乾電池を使用してください。規定外の電源を使用した場合は、火災または装置の破損の原因となります。

・電池は正しい極性で装着してください。
電池の液漏れ、発熱、破裂など、事故やケガなどの原因になります。

★ 使用環境について

次のような場所で本器を使用しないで下さい。

・高温になる場所
長時間直射日光を受ける場所や、締め切った自動車内、暖房器具の近くに置かないで下さい。また、寒い所から暖かい所に移動するなど、急に温度が変わるような使い方は避けてください。

・湿度の高い場所
風呂場、加湿器の近くなど、湿度の高い場所に置かないで下さい。

・ほこり、油煙の多い場所

・振動の激しい場所、傾いた場所

１．　仕様

１－１　電源

単３アルカリ乾電池３本（より良い効率性のため、充電式乾電池の御使用を強くおすすめします。　弊社奨励：パナソニック社製 エボルタ）

１－２　外径寸法・重量

外径寸法　：　８１（W）×１４１（D）×４０（H）mm（突起物は含まず）
重　量　　：　約２８０ｇ（乾電池含まず）

１－３　表示部・操作部

１）表示部　　ＴＦＴ液晶パネル（３２０×２４０）
２）操作部　　抵抗膜式タッチパネル

１－４　ＬＩＮＥポート

１）伝送路	送信部　１　　受信部　１ （送信機能と受信機能を同時に使用することは出来ません）
２）伝送速度	600/1200　baud
３）変調方式	周波数偏移方式（ＦＳＫ）
４）受信レベル	－４０ｄＢｍ～０ｄＢｍ
５）搬送中心周波数	600baud　1200Hz 1200baud　1700Hz
６）周波数偏移幅	600baud　±200Hz 1200baud　±400Hz
７）通信方式	ＣＤＴ方式（44 ビットフォーマット　１Ｗ～６３Ｗ）
８）同期方式	フレーム同期
９）符号検定	反転２連送照合、パリティ検定

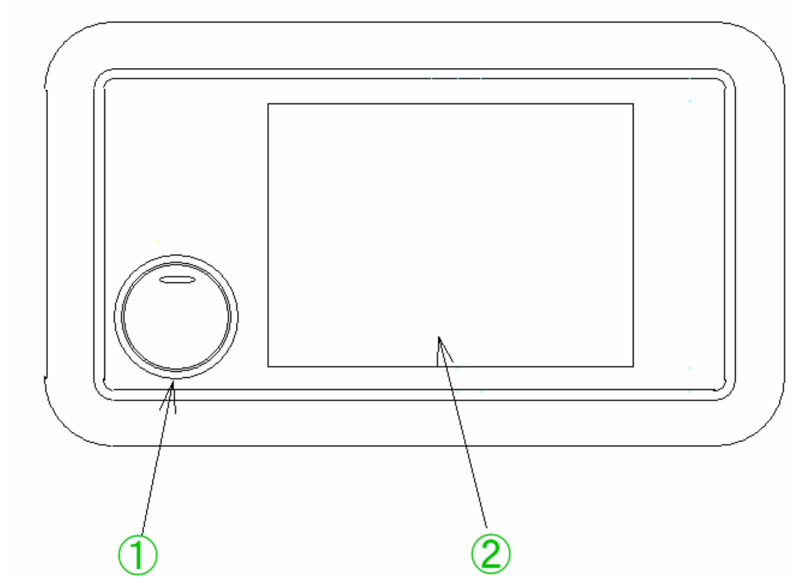
※　上記ＬＩＮＥポートは、オプションでカスタマイズ可能です。カスタマイズをご希望の方は、弊社までご連絡ください。可能な範囲でご対応させていただきます。

１－５　注意事項

本器はあくまで簡易的なラインシュミレータ・ラインモニターです。高速で変化するビットは試験を行うことが出来ません。また、シュミレータ機能使用時は折返しワードが大きくなるにつれ表示速度が遅くなります。精密な機器などには、ご使用条件に合う製品をご選定下さい。

２．　パネル面と表示画面の説明

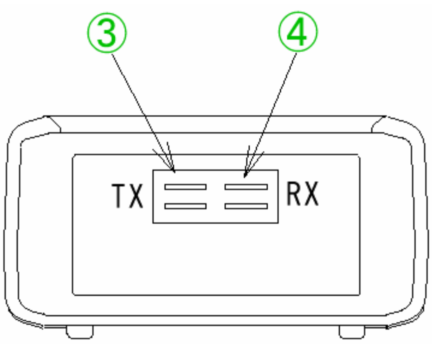
２－１　前面パネル



①　電源ＳＷ　　　　　　　電源をオン／オフするスイッチです。

②　TFT タッチパネル部　ＴＦＴ表示部及びタッチパネル操作部です。

２－２　側面パネル



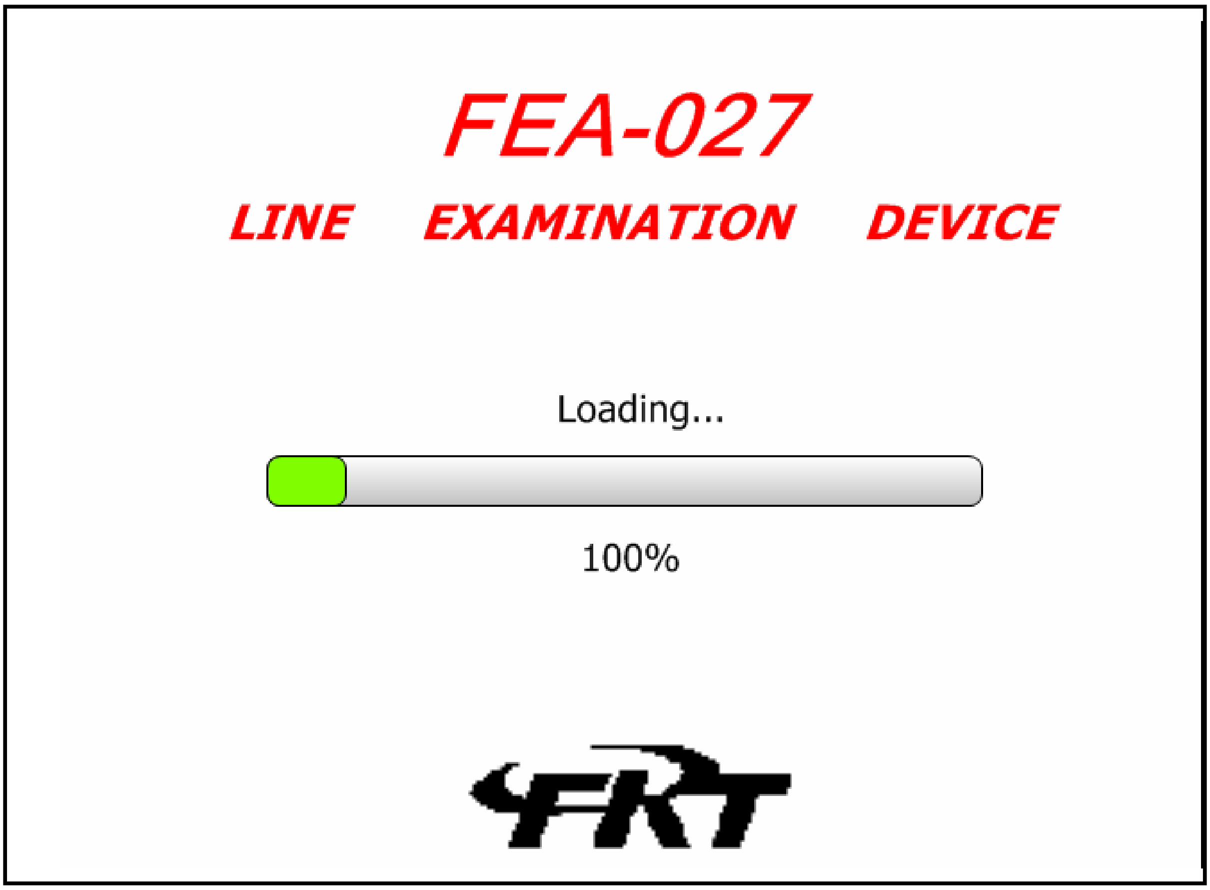
③　ＴＸ　　　　　　　　　送信ＬＩＮＥ部です。

④　ＲＸ　　　　　　　　　受信ＬＩＮＥ部です。

３．　使用方法

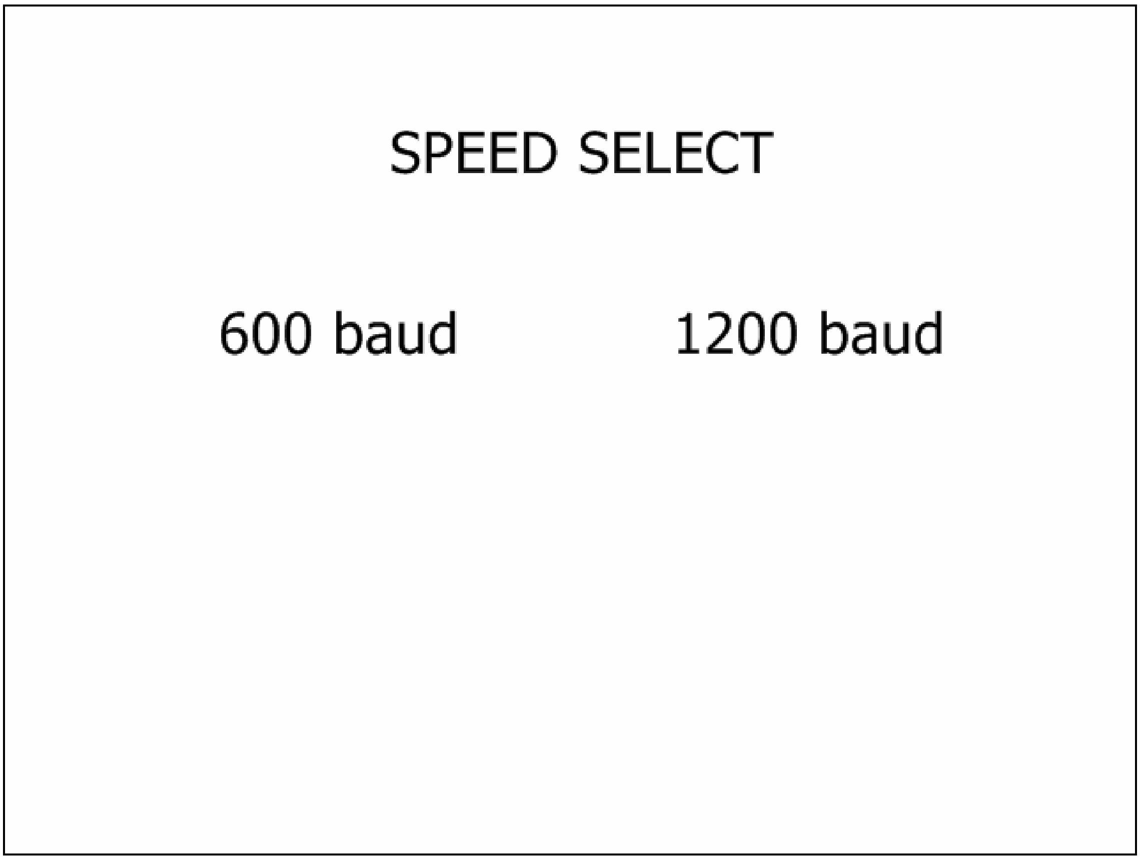
３－１　送信機能

３－１－１　起動画面



１）電源ＳＷを「ＯＮ」にすると、上記画面になります。
　　バーグラフが１００％になるまで、しばらく待ちます。

３－１－２　伝送速度選択



１）起動画面が終了すると、上記画面になります。
　　ここで、伝送速度を選択してください。
　　（600 ボーの場合は「600baud」をタッチ、1200 ボーの場合は「1200baud」を
　　タッチします。）

３－１－３　「送信機能」「受信機能」選択

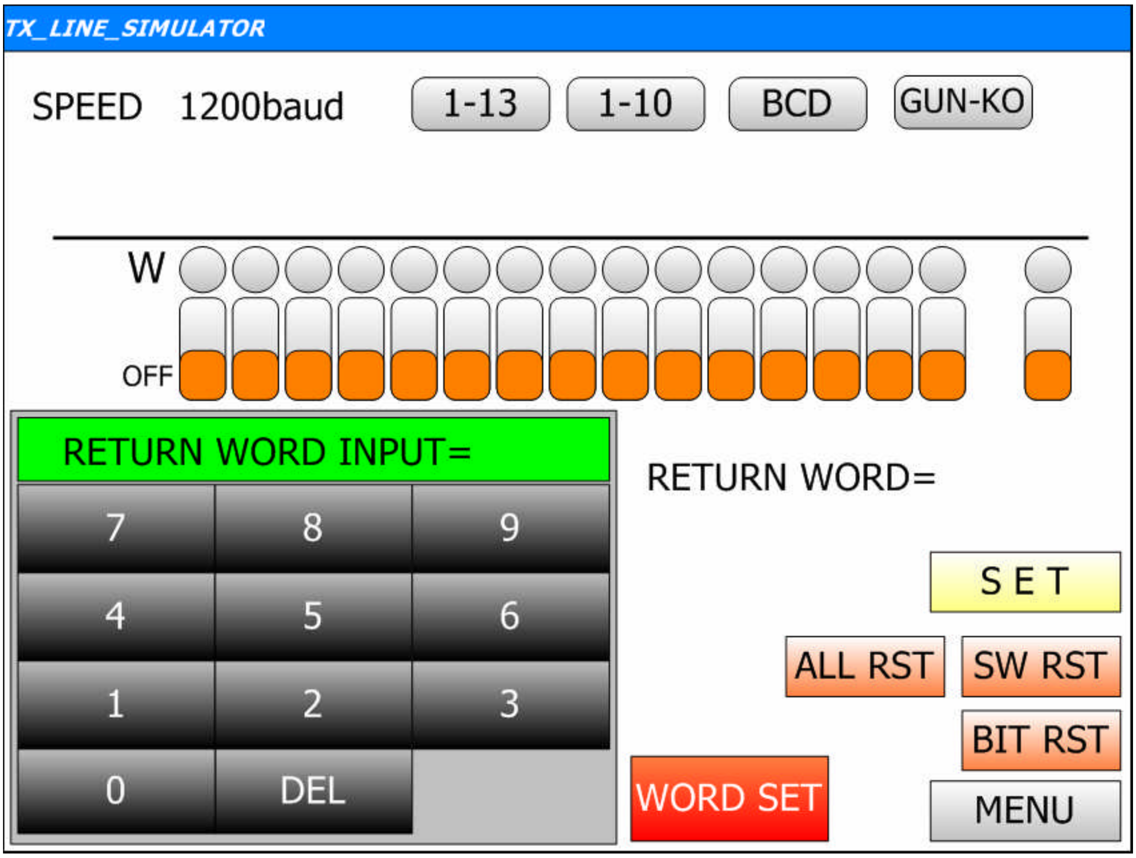
TX LINE SIMULATOR

RX LINE MONITER

１）上記画面で「TX LINE SIMULATOR」をタッチします。

２）本器の側面「ＴＸ」部と、測定対象機器とを測定コードでつなぎます。

３－１－４　折返しワード設定



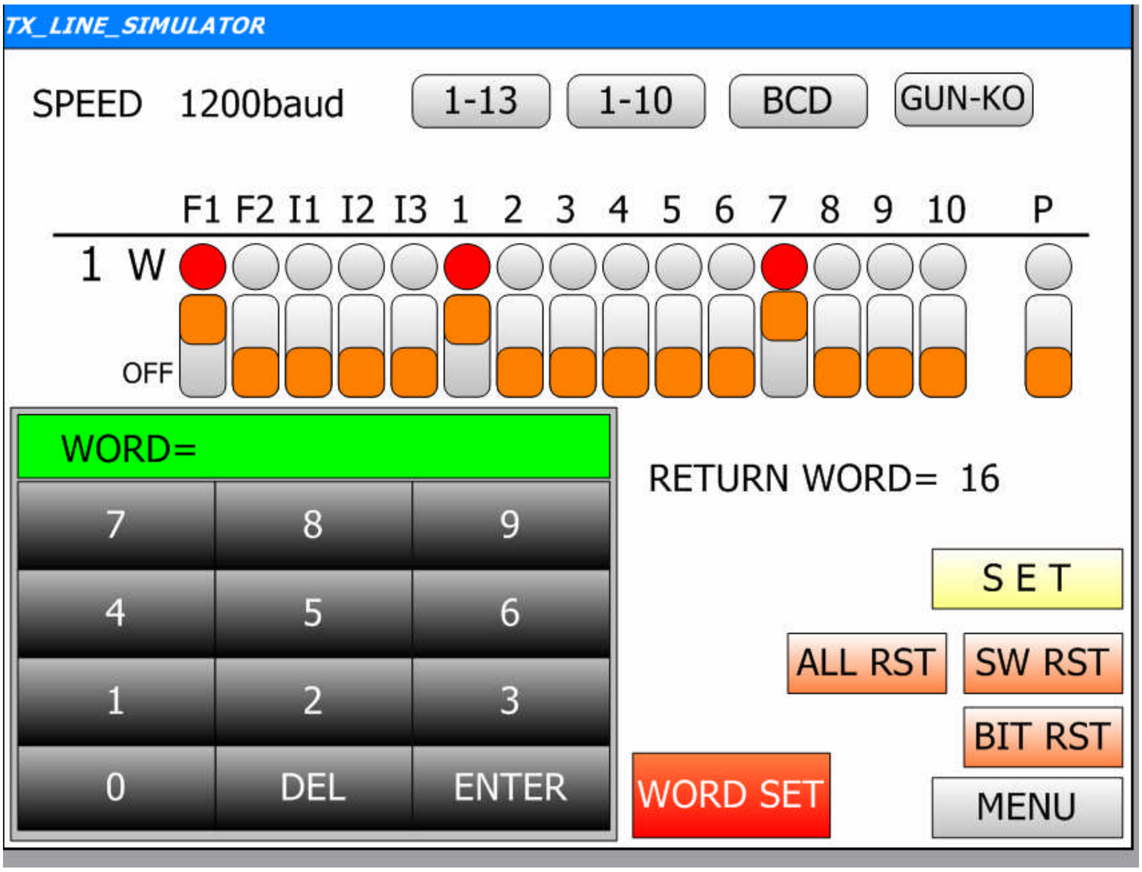
１）折返しワード入力

　テンキーにて、折返しワードを入力してください。

２）折返しワード設定

　折返しワードを入力し終わったら、「WORD SET」ボタン（赤色のボタン）をタッチし、折返しワードを設定します。

３－１－５　送信開始



１）ビットを変更したいワードをテンキーにて入力し、「ENTER」ボタンで設定します。

２）［１－１３］［１－１０］［ＢＣＤ］［ＧＵＮ－ＫＯ］ボタンのどれかをタッチし、ビット名を表示させせます。

３）変更したいビットのスイッチをタッチして上（ＯＮ）にし、［ＳＥＴ］ボタンをタッチします。

①トータルパリティ（Ｐ）は、スイッチのＯＮ・ＯＦＦにかかわらず自動付与されます。(ただし、ビット表示が灰色の状態(OFF)時は強制的に赤色(ON)にすることが出来ます。)

４）変更したビット表示が赤色に変わり、送信信号が変更されます。

５）１）～４）を繰り返し、送信信号を変更します。

６）［ＳＷ ＲＳＴ］ボタンでスイッチをＯＦＦにします。(送信ビットはそのままです。)

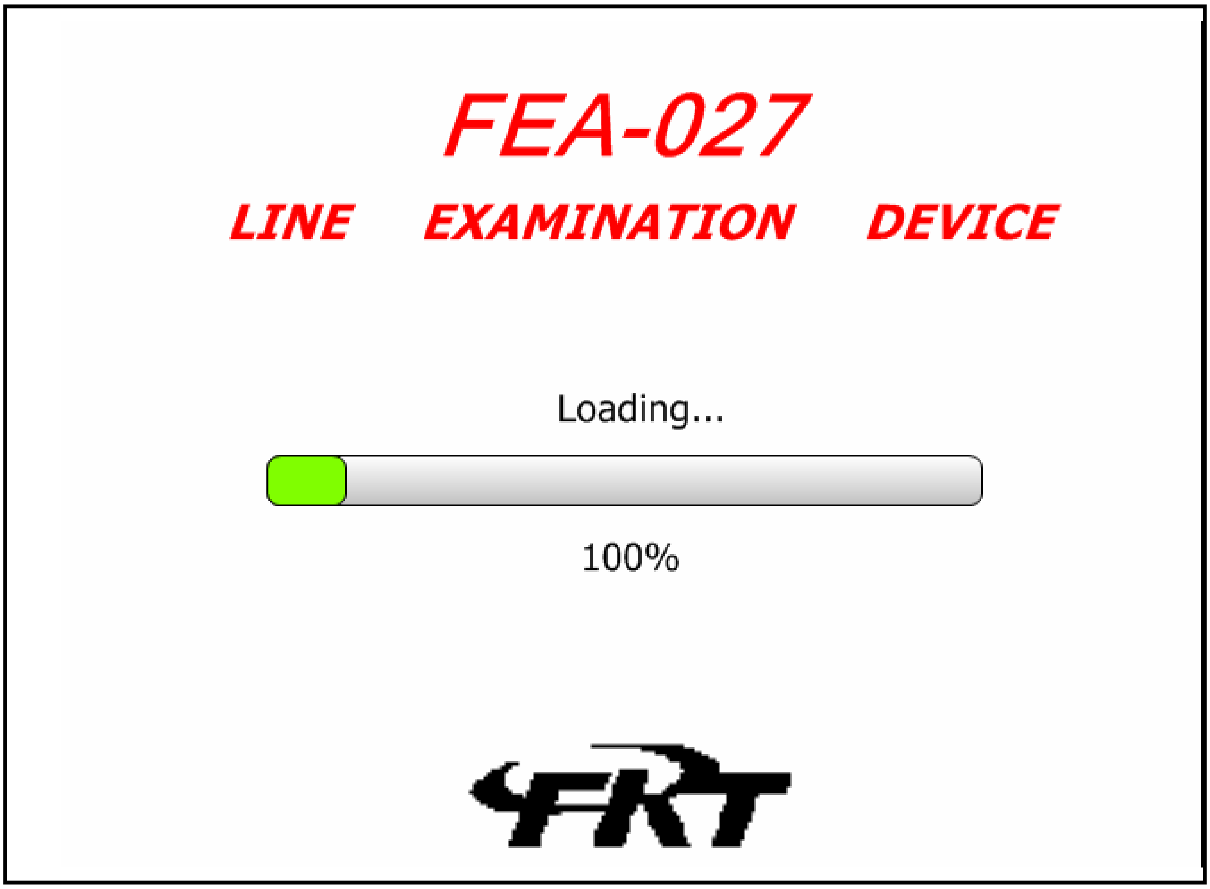
７）［ＢＩＴ ＲＳＴ］ボタンで送信ビットをＯＦＦにします。（スイッチはそのままです。）

８）［ＡＬＬ ＲＳＴ］ボタンでスイッチ・送信ビットともＯＦＦにします。

９）［ＭＥＮＵ］ボタンをタッチすると、起動画面へ戻ります。

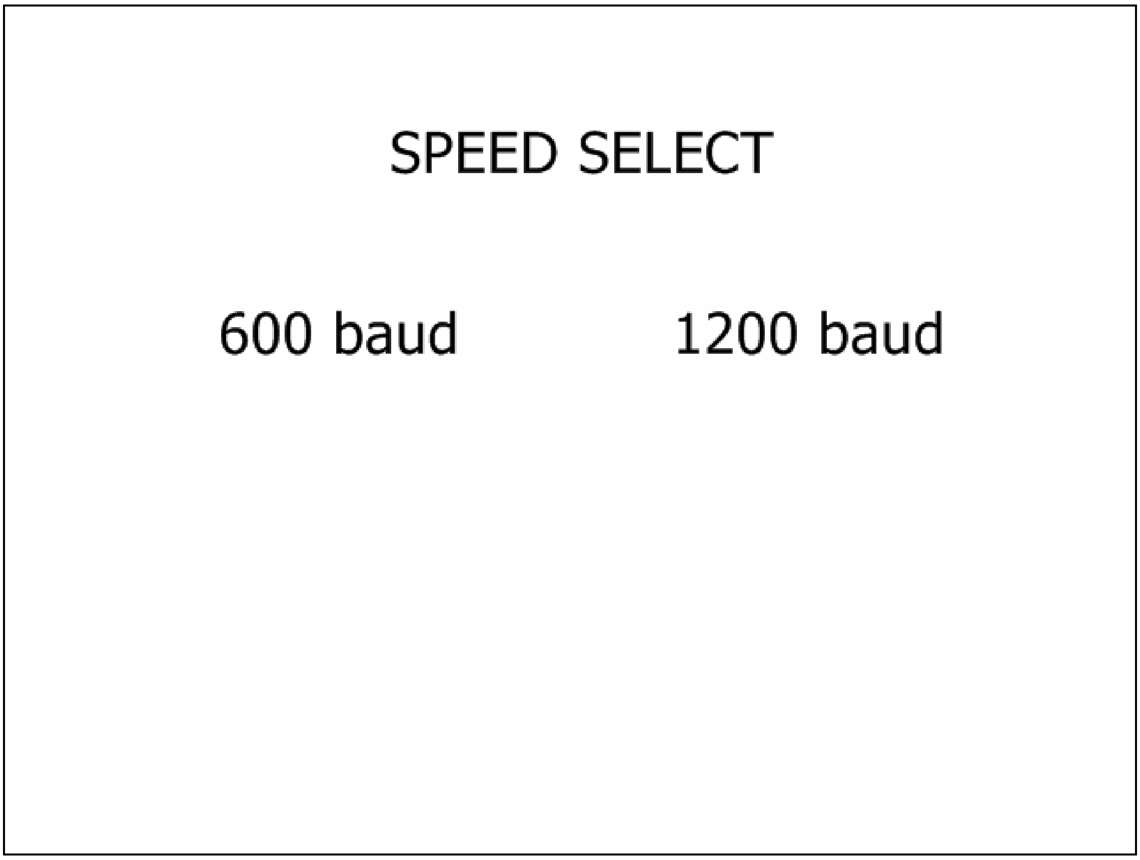
３－２　受信機能

３－２－１　起動画面



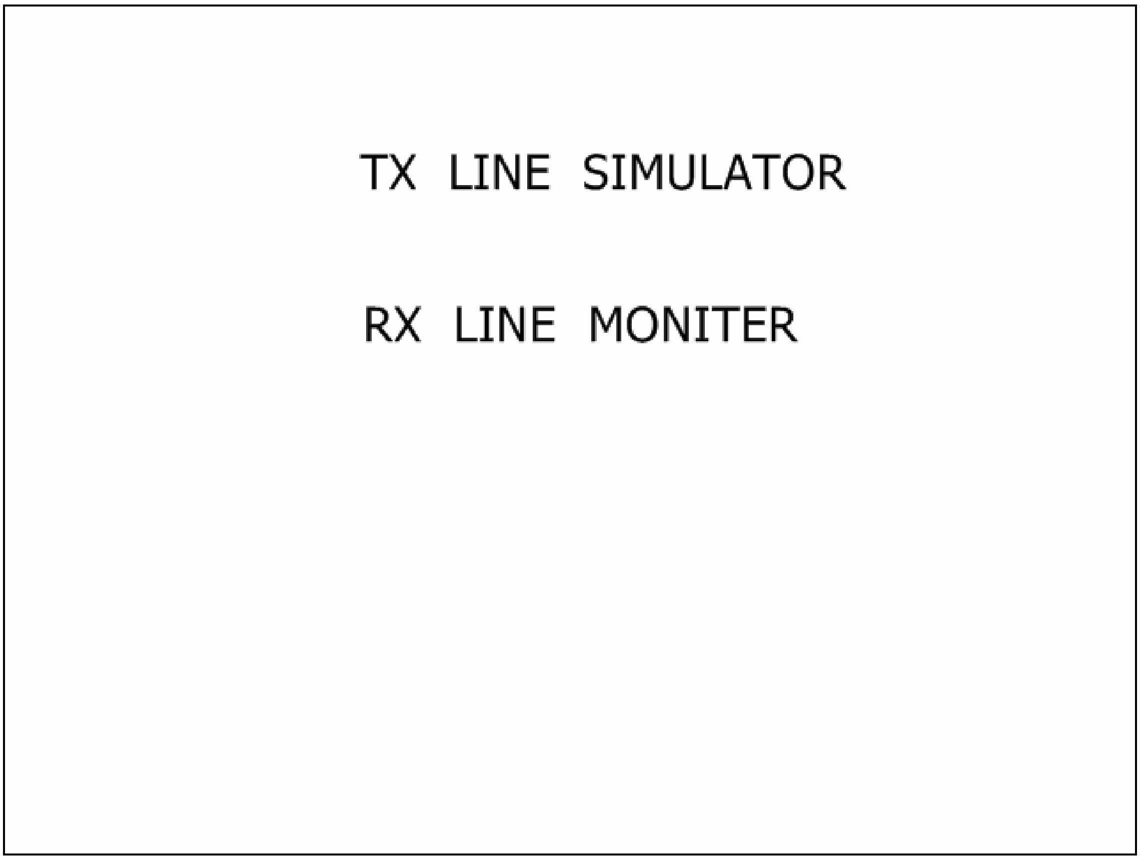
１）電源ＳＷを「ＯＮ」にすると、上記画面になります。
　　バーグラフが１００％になるまで、しばらく待ちます。

３－２－２　伝送速度選択



１）起動画面が終了すると、上記画面になります。
ここで、伝送速度を選択してください。
（600 ボーの場合は「600baud」をタッチ、1200 ボーの場合は「1200baud」をタッチします。）

３－２－３　「送信機能」「受信機能」選択



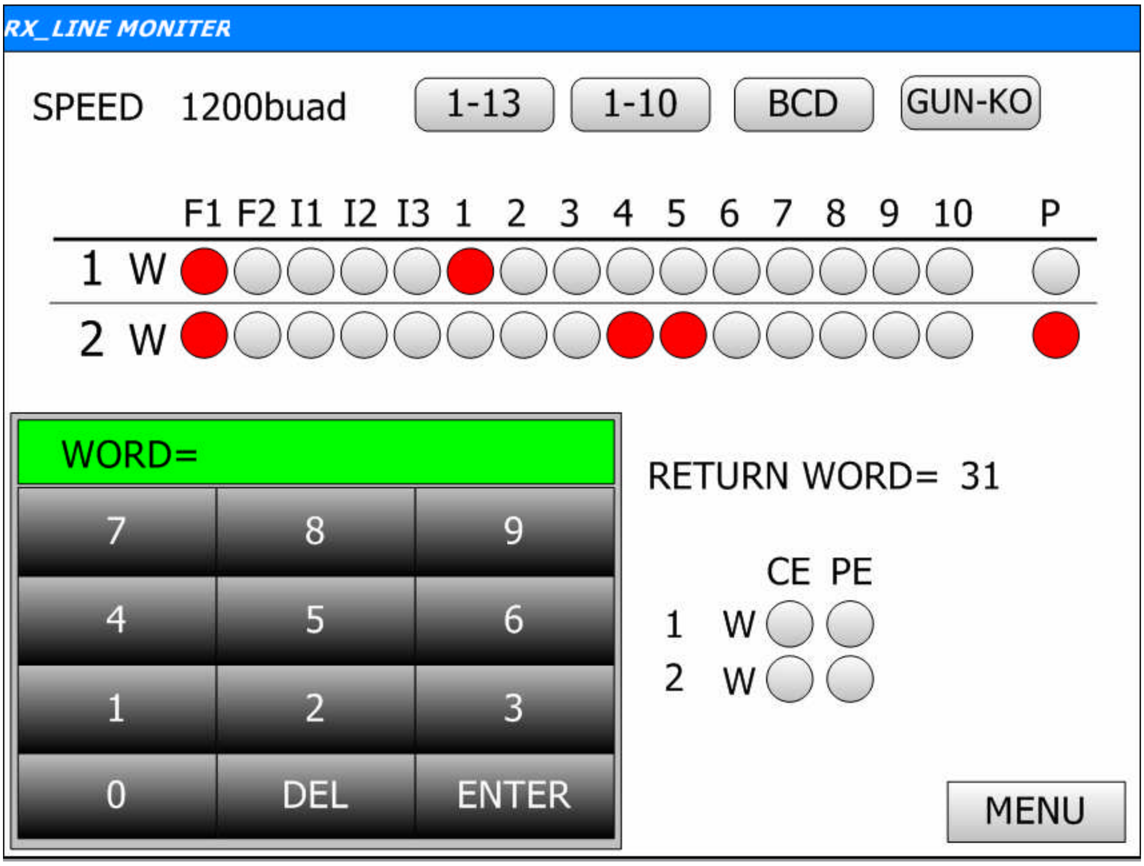
１）上記画面で「RX LINE MONITER」をタッチします。

２）本器の側面「ＲＸ」部と、測定対象機器とを測定コードでつなぎます。

３－２－４　受信開始

１）画面中央に「ＲＥＴＵＲＮ　ＷＯＲＤ　ＳＥＡＲＣＨ...」と表示され、折返しワードを自動計測します。

２）しばらく待つと下記画面に変わり、受信信号を表示します。



１）計測した折返しワードを「ＲＥＴＵＲＮ　ＷＯＲＤ＝」に続いて表示します。

２）表示したいワードをテンキーにて入力し、「ENTER」ボタンで設定します。

①初期画面では上段に１ワード、下段に２ワードの情報を表示します。
ただし、折返しワードが１ワードの場合は下段の表示は変わりません。

②上段には入力したワード、下段には入力したワード＋１の情報を表示します。
ただし、３２ワードは同期ワードのため表示しません。）

③反転連送照合エラー（ＣＥ）、パリティエラー（ＰＥ）を画面右下に表示します。（エラーで赤色）

３）［１－１３］［１－１０］［ＢＣＤ］［ＧＵＮ－ＫＯ］ボタンのどれかをタッチし、ビット名を表示させます。

４）２）～３）を繰り返し、受信信号を表示させます。

５）［ＭＥＮＵ］ボタンをタッチすると、起動画面へ戻ります。

３－２－５　受信キャリア未検出

受信キャリア未検出状態になると、下記画面に変わりキャリア未検出を知らせます。
キャリアを検出すると、受信信号表示画面に切り替わります。

